慶應義塾医学部新聞
発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160－8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　比金　能樹
毎月　1回20日発行

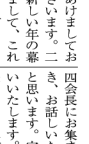
2006年新春座談会

慶應医学部新聞による新企画

三四会発行慶應医学部新聞では、山崎元慶應義塾常任理事、池田康夫医学部長、相川直樹病院長、比金能樹三四会長が一同に介する新春座談会を開催した。2006年の抱負から2年後の創立150年に関連する話題まで広く討論が交わされ、医学部、病院のあり方について司会の坪田一男編集長のもと一時間に及ぶ熱いディスカッションが交わされた。

二〇〇六年をその第一歩に　創立一五〇年に向かって

司会　新年あけましておめでとうございます。二三四会長にお集まりいただいたのは、お話しいただきたいと思います。宜しくお願いします。まずは、今年の幕開けに際しまして、これから医学部およびそれぞれのお立場から二〇〇六年のお抱負、どのような方向に歩んでいくのか、山崎元常任理事、池田康夫医学部長、相川直樹病院長、比金能樹三四会長にお話しいただきたいと思います。



山崎元常任理事

山崎　慶應義塾が創立一五〇年を迎えるのが二年後となりました。今まで慶應義塾が歩んで参りました歴史を踏まえ、これから二〇〇六年の新しい年の幕開けに際して、これから医学部が担う三四会が、何を考え、どのような方向に歩んでいくのか、山崎元常任理事、池田康夫医学部長、相川直樹病院長、比金能樹三四会長にお話しいただきたいと思います。

司会　創立一五〇年のロゴが、「未来への先導」という基本テーマのもと、「独立」と「協生」の二つの焦点を表しているということですが、山崎先生のお話もはり、医学部におけるこの焦点に重点を置く部分だと捉えてよろしいでしょうか。

山崎　そうですね。一五〇年のロゴは義塾と限られたものではなく、もっと社会に求められていく、塾としても大事なことだと思います。ある部分では社会と協生していかなければならない。学塾として独立していく部分も必要である、ということから、二つの焦点を持つ楕円になっているのだと思います。

池田　医学部では、今後は他学部との連携が研究・臨床ともに重要になってくると思います。また社会と接点という部分が重要視されてきます。大学の一番の使命は、人材の育成に他ならないと思います。

相川　今現在「新棟」と呼ばれているビルが、二五周年のときに建てられたもので、すでに新棟としては、今年が経営改革プロジェクトの最終年になります。この二十二年間に病院と併せての消費収入を合わせて新棟建設の実現に向けて努力をしていきたいと思っています。

池田　PETを中心とする先端医療施設の話が出ましたが、これは二〇〇六年までに竣工するという予定です。この医療施設が慶應医学部のひとつのシンボルとして我国の代表的な医療施設として世界に誇れる施設となることを期待しています。

池田康夫医学部長

新棟建設実現に向けて　現代の諸問題から未来への展望

司会　では、そういった付議座談がスタートしております。この流れは大きな問題ですが、医学部としてはいかがでしょうか。

相川　今現在「新棟」と呼ばれているビルが、二五周年のときに建てられたもので、すでに新棟としては、今年が経営改革プロジェクトの最終年になります。この二十二年間に病院と併せての消費収入を合わせて新棟建設の実現に向けて努力をしていきたいと思っています。

池田　昨年十月以来、新棟建設のプランが現在の方向に進んでいるのではないかと期待をしています。その準備として、今年が経営改革プロジェクトの最終年になります。医学部と病院、そして三四会の皆様にとっても、新しい医療の展開を誰もが願っていることだと思います。一五〇年記念事業の中に、新病棟建設のプランが現在の方向に進んでいるのではないかと期待をしています。その準備として、今年が経営改革プロジェクトの最終年になります。医学部と病院、そして三四会の皆様にとっても、新しい医療の展開を誰もが願っている半面、同時に国民は、医学部としては、新しい医学部の体制、病院の体制で、はたして本当にうまくいくのではないかと思います。

池田　昨年十月以来、新執行部、新体制造るような医学部・病院後どのように進んでいったら良いか考えていったら良いかを描き、二〇年、あるいは五〇年先を見据えた医学部・病院を構築するために、皆さんが、そのような議論を交わしました。新しい方向性を模索する意見もかなり出ました。